青山学院大学 文学部
比較芸術学科
Department of Comparative Arts

———比較芸術学科に関するお問い合わせ先———
【文学部 比較芸術学科】〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25　Tel 03-3409-9527
https://www.aoyama-comparative-arts.jp/

青山学院大学文学部
比較芸術学科
2022

比較芸術学科

人間はつねに芸術とともに歩んできました。
人類のスタートである原人たちが用いた素朴な道具に、
すでに「用の美」ともいうべき形態への美意識が芽生えていたことは数々の遺物が物語っています。
そして、原人から旧人をへて私たちの祖先の新人＝現生人類にいたって、
お互いの意志を伝える原始言語――それには音楽や演劇の原型も含まれていたでしょう――が生まれ、
フランスやスペインの洞窟壁画が制作されるとともに、
やがて文字の出発点としての象形文字が生まれています。
これらを振り返ると、芸術活動こそが人間を人間たらしめている本質といえるかもしれません。
比較芸術学科は、この人類の根源的能力としての“芸術”に着目して生まれました。
ここではまず五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）をとぎすませて学ぶこと、それが第一のモットーです。
それらを通じて最終的には“第六感”＝インスピレーションを獲得することができればとも考えます。
ここでのインスピレーションは、“五感”をとぎすませて得られた“叡知”や“創造力”のことです。
この学科では、さまざまな芸術が人類の叡智の歴史にいかに寄与してきたか、
その芸術的創造力の本質や魅力を学びます。
本学科は、伝統的・古典的な芸術として長い歴史を刻んできた
「美術」「音楽」「演劇映像」という3つの領域で構成されます。
これらは古典や伝統、歴史を基盤とする人文学の基本というだけでなく、
現代社会の芸術・文化の本質を知るうえでも欠くべからざる領域といえましょう。
これら芸術諸領域の幅広い比較学習・研究を通じて、
学生個々の“人間力”が確立されることを願っています。

学びの特色

「比較学習」「古典重視」「鑑賞教育」を学びのコアとして、3つの領域を相互に連関させ、
理論学習と体験・実践学習とを組み合わせながら学び深めていきます。

1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目（必修）			
	専門選択科目		
	美術領域　西洋美術、日本・東洋美術を対象とし、2年次に「基礎演習」3・4年次に「演習」を中心に学んでいきます。		
	音楽領域　西洋音楽、日本・東洋音楽を対象とし、2年次に「基礎演習」3・4年次に「演習」を中心に学んでいきます。		
	演劇映像領域　日本の古典芸能、西洋演劇、映像・映画を対象とし、2年次に「基礎演習」3・4年次に「演習」を中心に学んでいきます。		
	選択科目		

3つの領域と主な科目

21世紀を生きる私たち。その五感を刺激する古典を中心とした芸術を比較学習・研究する
「新たな学び」が始まっています。

カリキュラムガイド

カリキュラムの特徴

「比較学習」「古典重視」「鑑賞教育」の3つに集約されます。「比較学習」は、3領域それぞれの時代的・地域的比較はもとより、領域相互の比較検討、そして他の人文諸学との比較も含まれます。芸術が本来、各ジャンルの相互関連により成り立っていることを前提としたものです。「古典重視」は文字通り東西の古典テクストの読解を重視することです。「鑑賞教育」は生の芸術作品の鑑賞を踏まえた教育です。これら基礎の段階から徐々に専門へと、段階を追ってカリキュラムは設定されますが、大切なことはまず固定観念を棄てること、そして改めて自分にもっとも合った専門領域を選択していくことです。結果としてそれは、学生諸君の以後の幅広い芸術的視野からの学習・研究を可能とし、将来的には社会への着実な貢献を約束してくれるでしょう。

学科科目(必修)	20単位
学科科目(選択必修)	50単位
外国語科目	8単位
青山スタンダード科目	24単位
自由選択科目	26単位
卒業要件単位	**128単位**

学びのポイント

芸術を「比較」しながら学ぶ

「比較」による学習・研究は、この学科の学びの基本です。1年次の「比較芸術学入門」は、本学科の専任スタッフと一部非常勤講師によってオムニバス形式でおこなわれるもので、展覧会や演奏会、舞台、映画などの鑑賞を前提に、その解説とレポート作成によって「美術」「音楽」「演劇映像」の実際を比較しながら体験的に学びます。1・2年次の「各領域と文芸」でも、2分野以上を選択することで各領域と文芸との関係とそれぞれの本質を学びます。

文章のデッサン力を鍛える

この学科では1年次の「比較芸術学入門」から3・4年次の「演習」にいたるまで、生の作品鑑賞を基本とする学習・研究を積み重ねます。そこでの鑑賞レポートはたんなる感想文ではなく、その作品が具体的に美術なら形体や色調、構図その他、音楽なら楽器や声の音色、アンサンブルその他、演劇なら役者の所作やせりふ回しその他等々、細部にいたる観察による言語化(ディスクリプション)の訓練を義務づけ、言葉のデッサン力の獲得を目指します。

古典テクストを読む

本学科は生の芸術作品を鑑賞することと並行して、古典テクストの読解にも力をいれます。芸術作品はいわば歴史や文化の「非文字資料」ですが、やはりそれらの編年や意味の詳細を理解するには文字資料であるテクストの読解が不可欠です。ある国の美術や音楽、演劇映像を真に理解するには、その国々の言語を理解せずして済ますことはできません。「原書講読」では英語はもちろん、漢文・古文のテクストもとり上げます。

芸術鑑賞の基本を学ぶ

「芸術鑑賞の方法」では、そこに何が表され、何を意味しているのかという美術解釈の基本となる図像学をはじめ、具体的な美術作品の調査法、絵画や彫刻の簡単なデッサンの技法、西洋音楽や日本伝統音楽の楽曲分析、古い楽譜の解読や演奏法、日本古典芸能や西洋演劇では演技者や舞踊家による実技を前提とした所作や動きの意味、道具の役割など、作品鑑賞に必須の基礎知識を学びます。

	1年次	2年次	3年次	4年次
	鑑賞教育の基礎を学ぶことにより、Ⅰ美術・Ⅱ音楽・Ⅲ演劇映像それぞれのジャンルの通史的理解を前提に、それと同時代の諸文芸との関連を比較・学習することで芸術系3領域それぞれの特性のより明確な把握を目指す。	各領域における「基礎演習」「原書講読」「鑑賞の方法」などの専門科目の比較学習・研究を徹底することにより、各領域それぞれの共通性や異質性への学問的認識を深める。	2年次よりひきつづき、比較学習、研究を徹底する。各領域の専任教員のもとで本格的な演習の履修がはじまり、より専門性の高い教育内容の修得を目指す。	各領域ゼミナールとも選択必修科目の「特別演習(卒業論文)」により卒業論文(本文2万字程度)の作成指導をおこない、専門的研究の出発点とする。各専門領域の知識のさらなる修得に努める。
専門基礎科目	比較芸術学入門A／比較芸術学入門B／西洋の文芸と美術A 西洋の文芸と音楽A／西洋の文芸と演劇映像A／ 日本・東洋の文芸と美術A／日本・東洋の文芸と音楽A／ 日本・東洋の文芸と演劇映像A	芸術と文学／芸術と法	※領域は次のように表されます。 Ⅰ美術／Ⅱ音楽／Ⅲ演劇映像	
専門選択科目 (イ)～(ホ)までは上記による、2つ以上の領域から単位を取得すること (イ)		西洋の文芸と美術B／西洋の文芸と音楽B／西洋の文芸と演劇映像B　／日本・東洋の文芸と美術B／日本・東洋の文芸と音楽B／日本・東洋の文芸と演劇映像B		
(ロ)		基礎演習 Ⅰ(1)(2)(3)、Ⅱ(1)(2)、Ⅲ(1)(2)(3)		
(ハ)		原書講読 Ⅰ(1)(2)(3)、Ⅱ(1)(2)、Ⅲ(1)(2)(3)		
(ニ)		[芸術鑑賞の方法 Ⅰ](1)人体・静物等のスケッチと模写・模造　(2)国内外の美術館・博物館の鑑賞法　(3)美術作品の鑑賞と展示の方法 [芸術鑑賞の方法 Ⅱ](1)中世・ルネサンス・バロック時代の記譜法　(2)音楽作品の分析　(3)邦楽器の伝承と実際 [芸術鑑賞の方法 Ⅲ](1)伝統芸能の鑑賞と実際　(2)舞台芸術はいかにして生まれるか　(3)映像芸術の理念と鑑賞		
(ホ)		[比較芸術学特講 Ⅰ](1)西洋キリスト教における礼拝像の諸問題　(2)西洋中近世の宗教的実践とイメージ　(3)西洋美術史学の方法と歴史　(4)西洋近現代美術の諸問題 (5)・(6)日本美術史における文字の造形表現(書表現)の展開　(7)・(8)南北朝以前の宗教造形の見方・考え方 [比較芸術学特講 Ⅱ](1)ブルックナーの交響曲分析　(2)日本近代音楽史　(3)19世紀ドイツ語圏音楽史(1)　(4)19世紀ドイツ語圏音楽史(2)　(5)「近代フランス音楽」のカノン　(6)ワーグナー「パルジファル」分析 [比較芸術学特講 Ⅲ](1)シェイクスピア鑑賞の方法　(2)リアリズム演劇の誕生と展開　(3)・(4)歌舞伎のなかの女性　(5)20世紀前半の映画　(6)20世紀後半以降の映画		
(ヘ)			比較芸術学演習 Ⅰ(1)(2)(3)(4)、Ⅱ(1)(2)、Ⅲ(1)(2)(3)	
(ト)				特別演習(卒業論文)
選択科目		美学・芸術思想／西洋の宗教と芸術／日本・東洋の宗教と芸術	博物館実習Ⅰ／博物館実習Ⅱ　※3年次・4年次のみ履修可能	
外国語科目	英語講読 Ⅰ／英作文	英語講読 Ⅱ／オーラル・イングリッシュ		
全学共通科目	**青山スタンダード科目**　学部・学科の所属に関わりなく、専門領域を越えて様々な学問分野の知識を身につけます。			
自由選択科目	学科科目、青山スタンダード科目、外国語選択科目の必要単位以上の履修、文学部共通科目、文学部他学科、他学部開講科目の履修が可能です。　勉強したい科目を自由に選択し、卒業に必要な単位とすることができます。			

美術

美術と他の芸術との違いはどこにあるでしょうか?

洞窟壁画にしても、ギリシア彫刻にしても、飛鳥時代や奈良時代の仏像にしても、経年による外見の変化こそあれ、「もの」として今も存在し続けており、観る者の心に直接訴えてきます。その美しさに見とれていると「時の隔たり」を忘れてしまうほどです。

しかし美術作品にはもう一つの重要な側面があります。どんな作品であれ「時代の鏡」であり、それを生み出した社会のありかたを反映しているのです。たとえば市民階級が成熟して美術の主な受容者に成長した17世紀のオランダでは親しみやすい分野である風景画、風俗画、静物画が独立して流行し、同じく町民層の富に支えられた江戸時代の日本でも庶民的美術の華である浮世絵が大発展を遂げました。

さらに美術作品は「美術それ自体の歴史」にも深く組み込まれています。古典古代の格言「自然は芸術の師」に倣って表現すれば「美術こそが美術の師」であり、一見どれほど独創的に見えようとも、美術作品というものは、程度の差こそあれ、過去に生みだされた偉大な作品の伝統に連なっているからです。作品の真の理解には、美術の伝統を知ることが不可欠なのです。

このコースでは「時代に規定されている」と同時に「時代を超越した存在」でもある美術作品の本質を、さまざまなアプローチを通じて総合的に理解してもらうことを目指します。

西洋美術

絵画を中心にして、西洋美術における主な素材と技法、ギリシア神話やキリスト教に関連した主な主題と図像、描写対象による絵画の分類およびその序列の歴史、今日ではとかく「非実用的なもの」の代表格とみなされがちな美術作品が担ってきた各種の実用的機能、「芸術家」のイメージの変遷などさまざまな問題について考えます。

日本・東洋美術

原始時代から今日まで、日本や東洋にはさまざまな形の美術が生み出されてきました。日本美術では縄文〜近現代の美術の様式変遷とその歴史的背景を振り返ります。東洋美術では日本美術と関係の深いもの—仏教美術や水墨画、工芸ほか—に焦点をあて、その理解を深めるとともに、日本美術との比較を通して互いの特色を考えます。

Message

Chiyori Mizuno
水野 千依

京都大学大学院文学研究科美学美術史学専攻博士後期課程単位取得退学、フィレンツェ大学、日本学術振興会特別研究員、京都造形芸術大学教授を経て、2015年より現職。博士(人間・環境学)。専門は、イタリア中・近世美術史・芸術理論。主著・共著に、『カラヴァッジョ鑑』(人文書院、2001年)、『イメージの地層』(名古屋大学出版会、2011年)、『キリストの顔』(筑摩書房、2014年)、主な訳書に、ディディ=ユベルマン『残存するイメージ』(人文書院、2005年)、セヴェーリ『キマイラの原理』(白水社、2017年)など。『イメージの地層』で、第34回サントリー学芸賞、第1回フォスコ・マライーニ賞、他受賞。

西洋の美術、なかでも中世からルネサンスにかけてのイタリア美術史を専門に研究しています。
美術作品というと、私たちはまず「美しいもの」として鑑賞する対象だと考えがちです。しかし、Artという言葉が「美術」を意味するようになったのは近代以降のことで、古くは「技芸」をさしていました。現在、美術館に収められ、鑑賞対象として眺められている作品の多くは、かつては崇拝対象だったり、神への捧げ物だったり、呪術力や奇跡力など、美的価値にとどまらない力をそなえ、見るものに、崇敬、畏怖、祈願、呪詛、魅惑…といった多様な感情をかき立ててきました。私は、こうした近代以前の造形物を、伝統的な美術史学の手法で理解するとともに、それらがかつて人々の生活のなかでいかに息づき、いかに受容されていたのかを、歴史人類学的視座から考え直したいと思っています。それぞれの時代がいかにイメージを生きてきたのかを問うことは、同時に、何を「美」としたのかを理解することにもつながります。西洋美術の歴史を辿りながら、イメージと人間が取り結ぶ豊かな関係を一緒に考えていくことができれば幸いです。

Ayako Ikeno
池野 絢子

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。専門は西洋を中心とした近現代美術・視覚文化。とくに20世紀イタリアの美術を研究している。単著に『アルテ・ポーヴェラ——戦後イタリアにおける芸術・生・政治』(慶應義塾大学出版会、2016年)。共著に中村靖子編『非在の場を拓く——文学が紡ぐ科学の歴史』(春風社、2019年)。分担執筆に岡田温司編『ジョルジョ・モランディの手紙』(みすず書房、2011年)など。

西洋を中心とした近現代美術を研究しています。20世紀美術の面白いところは、「美術」という枠組にはおさまりきらない越境的な性格を持っている点です。従来の「美」という価値基準では理解できない、びっくりするような作品がたくさん生まれました。私はそうして生み出された芸術作品が、政治や社会と切り結ぶ関係に興味を持ち、第二次世界大戦後の美術を例に研究してきました。最近では、世界大戦下の前衛芸術の変容に関心を寄せています。現代美術は難しい、わからないと評判ですが、そもそも歴史上、あらゆる美術はかつて現代美術でした。今は名画とか傑作と呼ばれる作品が、発表当時には批判の対象であったことも少なくありません。頭と心と眼を柔らかくして、未知の、新しい価値を理解する楽しさを知ってもらえたらと願っています。

Tetsuei Tsuda
津田 徹英

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得済退学。のち同大学より博士(美学)を取得。専門は日本彫刻史、密教図像学。とくに平安時代(9〜12世紀)の密教彫刻を研究対象にしているが、フィールド・ワークの範囲は、奈良時代(8世紀)の脱活乾漆造の技法研究から、鎌倉・南北朝時代(13〜14世紀)の肖像研究(彫刻・絵画)、詞書の筆跡を中心とする絵巻研究に及ぶ。単著に『中世の童子形(日本の美術442)』(至文堂、2003年)、『平安密教彫刻論』(中央公論美術出版、2016年)、編著に『組織論—制作した人々(仏教美術論集6)』(竹林舎、2016年)などがある。

「はてなの茶碗」という上方落語をご存知だろうか? 京都・清水寺界隈の茶店で普通に使われてきた安手の数茶碗のひとつが、さまざまな人の手に渡るうちに千両で売れてしまうという物語だ。こんな話を持ち出したのも、今日、美術館や博物館で展示ケースの向こう側で「美術作品」あるいは「文化財」として認識されている造形が、必ずしも最初からそのように評価されるべく生まれてきたわけではないということに気付いて欲しいからである。いったんそれに貼り付いてしまった「居心地のいい?」評価から距離を置き、改めて対象そのものに向かい合い、どのような環境(社会、制度、組織)のなかで、その「かたち」が生まれ、類作・類品のなかで何故、それが「評価」されるのか、それらのことがらを古代・中世の宗教造形を研究対象にして、東アジアの動向を見据えつつ皆さんと考えたいと思います。

Sachiko Idemitsu
出光 佐千子

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得済退学。博士(美学)。専門は日本絵画史。研究テーマは、江戸時代の水墨画の巨匠・池大雅の風景画をめぐる詩と画の鑑賞サークル。現在は、大雅が憧れた室町水墨画や、近代南画(小杉放菴)、人々の暮らしを描いた風俗画にまで関心が広がる。著書に『大雅・蕪村・玉堂と仙厓—「笑」のこころ』(出光美術館、2011年)、『没後50年 小杉放菴—<東洋>への愛—』(出光美術館、2015年)、共著に『風俗絵画の文化学』I・II・III(思文閣出版、2009年、2012年、2014年)。

水墨画と聞くと、地味で好きになれないと感じてしまう人もいるかもしれませんが、実際にはモノクロームほど、様々な光や音を伴った豊かな色彩表現はありません。ぜひ寺社や美術館など心静かになれる環境で、水墨で描かれた山水や花鳥と、じっくり向き合ってみてください。墨の濃淡を見慣れてくれば、山々は清らかな深緑や紅葉に変わり、川のせせらぎや花鳥の旋律も聴こえてくるはず。
抽象的だからこそ自由な鑑賞をゆるす水墨画の世界は、古来、詩文や名筆を生み出し、それらは時代を超えて画に添えられて一緒に鑑賞されてきました。授業では画と詩の鑑賞を通じて、名画は過去のものではなく、現代に生き続けているという感動を味わいます。海外の舞台で活躍できる人になるためにも、屏風や絵巻などに日本美術のユニークな感性を皆様と再発見してゆきたく思います。

音楽

人はなぜ、ある音と音との組み合わせに快を感じるのでしょう。
傑作はどうして万人を感動させるのでしょう。
古今の名曲はいったいどういう仕組みになっているのか、
なぜそのような作品が生み出されたのか、どんな社会だったのか……。

ありとあらゆる音楽が溢れ、しかしメロディもコードも出尽くして、
世代を越えた傑作の誕生が行き詰まっている今こそ、
過去一千年の風雪に耐えた古典に立ち返る時です。

—グレゴリオ聖歌、パレストリーナ、バッハ、モーツァルト、
ベートーヴェン、ショパン、チャイコフスキー、ヴァーグナー、
ストラヴィンスキー、そしてビートルズ……。
古典の真価に触れた経験は、
あなたの人生にとってかけがえのない魂の糧となり宝となるでしょう。

音の美の探求は、中世からヨーロッパの大学で営まれてきた
由緒ある学問です。知の源泉を訪ねる旅に出ようではありませんか。

西洋音楽

古代ギリシアから現代にいたる西洋音楽について、名曲を学ぶことはもちろん、政治・宗教や他の芸術との関係、音楽理論や楽譜の変遷、音楽家という職業、楽器とその演奏法、楽譜出版・演奏会、録音技術の影響など、多角的な視点から考えることにより、音楽芸術についての幅広い知識と鋭い洞察力を養うことをめざします。

日本・東洋音楽

日本や東洋には様々な楽器や歌による音楽、仮面舞踏や音楽劇のような他の芸術と関連した多種多様な音楽があります。これらを理解し、その音楽を生み出した人々の美意識や社会的背景、各楽器や楽譜などの伝承方法と現代への変化の過程などを比較・検証することで、人間と音楽の関係を考え、豊かな感性を養うことを目指します。

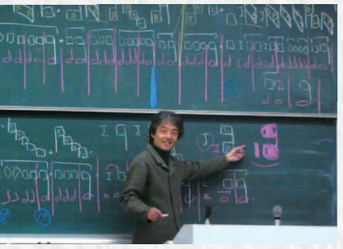
Message

那須 輝彦

Teruhiko Nasu

立教大学大学院文学研究科博士後期課程退学、ケンブリッジ大学大学院修士課程修了(Master of Philosophy)。中世からバロック時代にかけての音楽、とくにイギリスの教会音楽史と中世の音楽理論を専攻。著作に、『ヘンリ8世の迷宮〜イギリスのルネサンス君主』(共著、昭和堂、2012年)、『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』(共著、ミネルヴァ書房、2013年)、『ミクロログス(音楽小論)』(共著、春秋社、2018年)など。青山学院大学聖歌隊指揮者も務める。

中世ルネサンス〜バロック時代の音楽を研究しています。中世の音楽理論などと聞くと、遥か昔の難解きわまる話に聞こえるでしょう。でもじつは西洋音楽の根本を考えるということなのです。たとえばピアノの白鍵と黒鍵はどうしてああいう並び方をしているのか、ドレミの階名は誰がどうして考えたのか、音の高さやリズムを書き表すためにヨーロッパ人はどのような工夫を重ねてきたか……。当時の人々の立場に立ってその思考経路を追体験するのはとてもスリリングなことです。もちろん当時の音楽作品も素晴らしい。吟遊詩人が綴った愛の歌、ゴシック大聖堂に響いていた絢爛豪華なア・カペラの教会音楽、宮廷舞踏会を彩った典雅な舞曲……。みなさんにとって未知の傑作がどれほどあることでしょう。過去千年におよぶ音楽の宝庫に足を踏み入れ、感動し、名作がどのように作られたのか、誰によってどのように演奏されていたのか、音楽の知の探求にでかけようではありませんか!

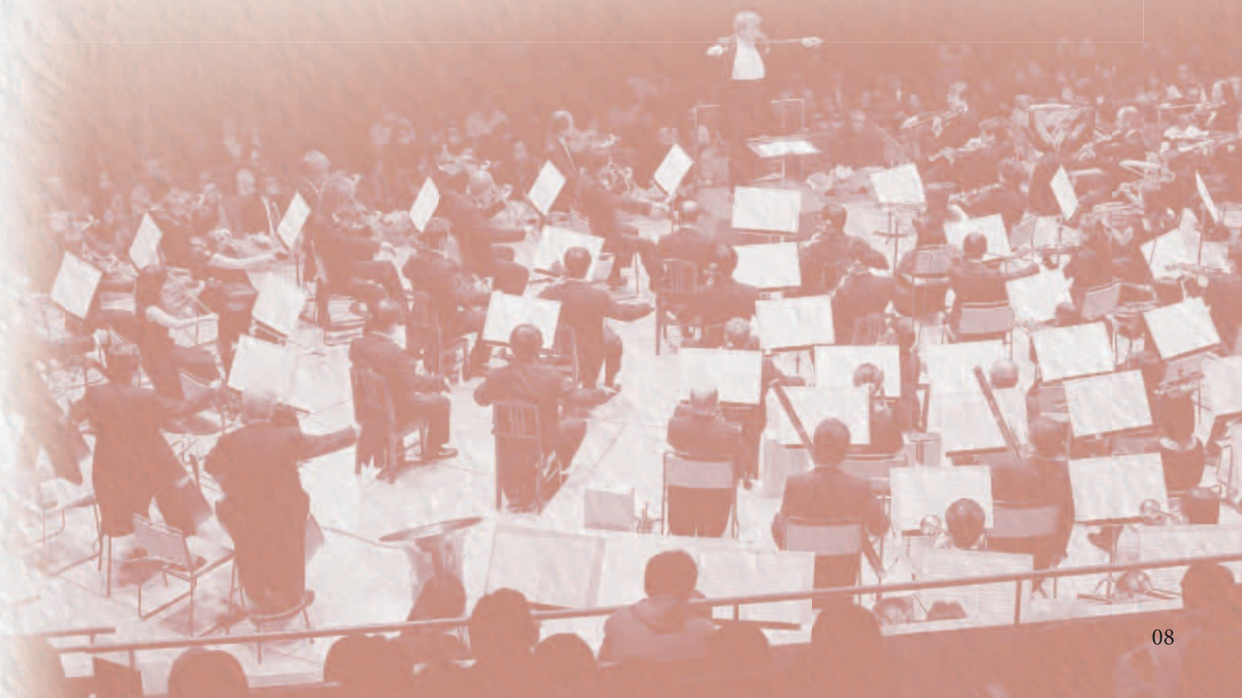


広瀬 大介

Daisuke Hirose

国際基督教大学大学院比較文化研究科・博士前期課程修了。一橋大学大学院言語社会研究科・博士後期課程修了。博士(学術)。19世紀後半〜20世紀前半の西洋音楽、とくにドイツの作曲家リヒャルト・シュトラウスのオペラ作品を中心に研究を続けている。著書に『帝国のオペラ』(河出書房新社、2016年)、『リヒャルト・シュトラウス　自画像としてのオペラ』(アルテスパブリッシング、2009年)等。訳書にベルリオーズ、シュトラウス『管弦楽法』(音楽之友社、2006年)等。

みずからの大学生時代を振り返ると、初めのうちは研究の道に進むなどとはこれっぽっちも思わず、決して向学心ある学生とは言えなかったなあ、とあらためて慚愧(ざんき)に堪えません。大学生だった1990年半ば、東京には、豪華な海外の歌劇場公演が続いていました。毎年のように圧倒的なオペラに接し、どうしてこのような芸術が生まれるに至ったのだろう、その深淵をもっと知りたい、と、いつの間にか研究という名の「沼」にはまり込んだのです。比較芸術学科を目指される学生の皆さんには、ぜひこの青山の地で、そんな一生を左右するような、どんな時代であろうとも決して色褪せることのない芸術の底力に触れていただきたいと思っています。世の中には、ひとの価値観を揺さぶり、一生を捧げても惜しくないと思えるような、そんな芸術があるのです。



演劇映像

演劇映像の領域では、演劇と映像という総合芸術の鑑賞・研究を通して、芸術の真価やその人生における意味を見きわめる目を養うことを目的とします。

現代の社会を生きる私たちの周囲には、生の舞台芸術はもちろんのこと、映画やテレビのようにメディアを利用した劇的芸術が氾濫しています。そうした演劇や映像の芸術をよりよく理解し、またそこから深い感動を味わうために、私たちは何をなすべきでしょうか?

演劇映像の名作に触れ、ほんものだけがもつ感動を味わうのが第一歩です。そして、古典のテクストをじっくりと読み込み、たしかな知識と鑑賞力を育むことが肝要です。

演劇は人類の歴史とともに歩んできました。舞台芸術、およびメディアを活用した映像芸術が成立するためには、多くの専門家が集い、各自の持てる力を十分に発揮することが不可欠です。まさに総合芸術といわれる所以です。総合芸術としての演劇映像には、多様な鑑賞と研究の方法がありえます。古今東西の演劇映像の世界を、美術や音楽との比較を通じて学び、演劇映像が人類の文化や歴史において果たしてきた役割について考えていきましょう。

日本古典芸能

日本における芸能や演劇の歴史について学び、広い視野の上に立って、歌舞伎や能楽など各時代の事例を取り上げます。わが国には古来どのような芸能や演劇が存在してきたのでしょうか。また近代への移行期には、西洋文明や文化との出会いによって、日本の演劇はどのような変化をとげてきたのでしょうか。芸能と演劇の概念やその関係、また芸能の場や劇場形態、芸能者や俳優、観客などの諸問題を考えます。

西洋演劇

ヨーロッパの古代から現代まで2000年以上におよぶ西洋演劇の歴史を把握し、上演を前提としたテクスト(戯曲)の読解を行います。演出家、制作者、役者、舞台美術家、音楽家など演劇にたずさわる人々の仕事を学び、演劇に関するさまざまな視座を構築することを狙いとします。芝居が上演された時代や社会背景に留意しつつ、舞台芸術の本質を追究していきましょう。

映像・映画

無声からトーキー、白黒からカラー、フィルムからデジタルへと、たゆまなく過激な変化をとげてきた現代のメディアの世界を研究の対象とします。映像、音響、時間、編集、鑑賞環境といった諸テーマを設定しつつ、映像や映画を批判的に学ぶ眼力を養います。さらに、映像メディアの誕生と発展が、今日の社会におよぼした影響についても考究していきます。

Message

Yasuo Sakuma

佐久間 康夫

青山学院大学大学院文学研究科博士課程満期退学。ケンブリッジ大学研究員。西洋演劇・イギリス文化専攻。NHKラジオ「ものしり英語塾」でシェイクスピアの講座を担当。著訳書に『心に響け、シェイクスピア』(NHK出版)、『舞台を観る、読む、語る』(ほんのしろ)、『シェイクスピア　人生の名言』(KKベストセラーズ)、ロビン・メイ『世界演劇事典』(開文社)、ロブ・グレアム『演劇の世界』(ほんのしろ)など。

今日のネット社会では、情報はいとも足早に流通しています。教科書的な知識は簡単に受け渡しが可能になりました。しかし芸術によって与えられる感動となると、こればかりは「教える」ことがむずかしい。自分で本気になってつかみとる努力や勇気が大切です。

芸術作品に触れて感動を味わったとき、その度合いをデシベルとかマグニチュードといった数値で表すことはできません。ある舞台に感激して、その印象をただ「すごいよかった」と書き記しただけでは、他人とのコミュニケーションは成立しません。そのときもしもあなたの心がザワザワっと動いたなら、その気持ちをどうやって人に伝えることができるのか——この学科では、そうした芸術の感動を言葉で表現する方法を学んでいきましょう。

また、大学で学ぶ4年間のうちに、ぜひ外国の文化にたいする興味を抱いて、ことばの感覚をとぎすませてほしいと思います。それは必ず自国の文化やことば、ひいては芸術全般を理解するうえで大きな助けになります。私自身、イギリスの文化や演劇と出会ったことは、人生が大きく変わるきっかけとなりました。

芸術を学ぶことを通して、自己実現の大きな夢に向かって挑戦してみませんか。

Katsura Sato

佐藤 かつら

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士(文学)。鶴見大学文学部専任講師、同大学准教授を経て2012年に青山学院大学文学部に着任。専門は日本芸能史、特に近世近代移行期の歌舞伎。著書に『歌舞伎の幕末・明治—小芝居の時代』(ぺりかん社、2010年)、共著に『円朝全集』第一・十・十二巻(岩波書店、2012年・2014年・2015年)等。新潟県生まれ。小さいころから祭礼の芸能を喜んで見物していたことが、今思えば、歌舞伎の研究をしている自分の原点となっています。

私は幕末明治期の歌舞伎、特に小芝居(こしばい)と呼ばれる、より大衆の身近にあった芝居に着目し研究しています。当時は歌舞伎においても大きな変革期で、歌舞伎と西洋文化との出会いと衝突など、とても面白い時代です。

研究者への一番の道しるべとなったのは、後に指導教員となる先生にお話をうかがいに行ったことです。本や研究動向など教えていただき、他の先生を紹介していただいたりもしました。多くの先生との出会いが今の自分に大きく影響しています。学生の皆さんには、授業以外にも積極的に先生と話すことをぜひお勧めします。何かしてもらうという受け身の態度ではなく、主体的な姿勢が必要ですが、得ることがたくさんあるはずです。

歌舞伎には、華やかさ、美しさ、人生の哀しみ、真心と、さまざまなものが詰まっています。皆さんに、歌舞伎ほか、日本の芸能の面白さや魅力、研究の楽しさと面白さを伝えられるよう、努力していきたいと思います。

Tetsuya Miura

三浦 哲哉

東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース博士課程修了。博士(学術)。専門はフランスおよびアメリカの映画表現論。著書に『映画とは何か——フランス映画思想史』(筑摩選書、2014年)、『サスペンス映画史』(みすず書房、2012年)、共著に『ひきずる映画』(フィルムアート社、2011年)、訳書に『ジム・ジャームッシュ・インタビューズ』(東邦出版、2006年)。

映画を見るって、よく考えるととても不思議なことです。知れば知るほどその思いは深まります。映画館は、外の世界の光と音を遮断する場所です。その中でいっとき、人工的に再現されたもうひとつの世界に身を委ねる。神秘的な「啓示」がそのとき降りてくるのだ、という論者もいます。それぐらい強烈に美しい映画が実際、世の中には存在します(ぜひ授業でご紹介したいです)。

ネット社会になって、いつでもどこでも好きなものを好きなだけ見られる時代になったといいますが、実際は、やはりとても限られた趣味嗜好や流行の範囲内で映像を楽しむという方が大半だと思います。それではあまりにもったいないと私は感じます。私たちの価値観そのものを揺さぶるような、そんな映像体験を分かち合えればと願っています。

Interview

学生4人にインタビュー　●美術　●音楽　●演劇映像

三浦　今日はさまざまな芸術分野で学ぶ本学科の学生のみなさんに集まってもらいました。まずは比較芸術学科に入ろうと思った理由を教えてください。

多々良　私はもともと芸術全般が好きで、オーケストラやバンド活動もしていました。大学では好きなことを勉強したいから、芸術系にしようと決めていて、それで、三浦先生の映画の本も読みました。オープンキャンパスの模擬授業も聞きに行き、そのとき先生と一回、お話ししているんですよね。

三浦　あ、そうでしたねえ。教員が書いた本を読んだうえで大学選びをするというのはほんとすばらしいですね。そして選んでもらって光栄です(笑)。

多々良　三浦先生の映画のゼミについて、大学のウェブサイトの動画で紹介されていて、楽しそう!と思ったのが一番大きかったです。

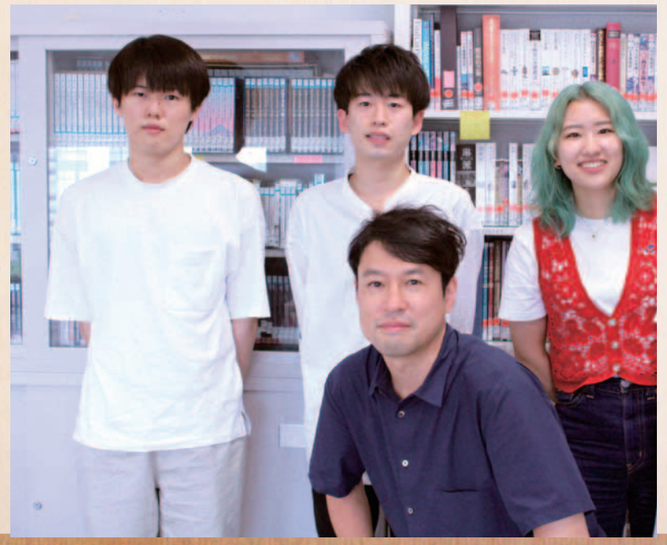
松元　私は最初、漠然と良い大学に入ろう、と思って大学選びをしていたんですけれど、段々、自分のやりたいことが定まらなくなってしまって。それであるとき大学案内の冊子を手あたり次第に探したら、比較芸術学科のパンフレットがあって、存在を知りました。自分は絵を描くことや映画を観ることが好きだったので、せっかく大学に行くなら、好きなことをやりたいなと思って、この学科を目指そうと思いました。実作ではなく、芸術鑑賞の方法を学ぶということも、すごく魅力的でした。

柳沢　僕は高校時代に吹奏楽部で演奏したり、部の演奏会の一環で演劇をしたりしていたので、文化を創ることにかかわる人文学の分野で学びたいと思っていました。それに、実学は、自分には向いていないように思えて(笑)。この学科は、自分がまだ知らないたくさんのこと、たとえば歌舞伎や絵画の古典などについても広く勉強できるのが良いなと思って、この学科を選びました。

大野　僕は高校生の頃は惑星科学か音楽学のどっちかが大学でやりたいな、と思っていたんです。

一同　惑星?

大野　はい。でも当時は知識量的に音楽学のほうが上回っていたので、結局、音楽学にしようと決めました。そのとき自分の一番好きな作曲家はグスタフ・マーラーだったので、マーラーに近い領域を専門にしていらっしゃる先生がいるか調べて広瀬先生が見つかり、広瀬先生がいるこの学科を受験しようと考えました。それから、マーラーは、音楽だけ勉強して理解できるような作品を作った人物ではなかったので、その背景知識として、哲学のことだったり、彼が当時活躍したウィーンの状



況――19世紀末、20世紀初頭にはとても複雑で魅力的な文化的土壌がありました――を複合的に学んだ先に作品理解があると考えると、音楽大学の楽理科で学ぶより、文学部の中で音楽を学べる場所の方が良いかなと思ったんです。

＊　＊　＊　＊　＊

三浦　では実際に入ってみて、学科の雰囲気やカリキュラムはどうだったでしょうか。

多々良　私は入学前からネットなどでかなりこの学科のことを調べていた比芸マニアだったんですが(笑)、入ってみても良い意味で予想通りというか、私が求めていた雰囲気だなって感じました。人数も少ないじゃないですか。少人数でじっくり一つのことについて勉強できる環境とか、アットホームな雰囲気が良いなって思いますし、友人たちとも深く関わることができます。授業のカリキュラムはとくに1・2年生のときに、もともとやりたかった映画以外の分野も満遍なく学ぶことができて、すごく良かったです。

松元　私は授業ですごく専門的な話ばかりだったらどうしようと、結構不安もあったんですが、入ってみたら全部の授業が面白くって。予備知識を持っていなくても楽しめて、「あ、歌舞伎にこういう魅力があったんだ」とか、「クラシック音楽ってこういうことが面白いんだな」とか。

[参加メンバー]
司会：三浦哲哉(本学科教授、映画研究)
【美　　術】西洋美術専攻(池野ゼミ)
　　3年　松元千尋
【音　　楽】西洋音楽専攻(広瀬ゼミ)
　　3年　大野直太
【演劇映像】西洋演劇専攻(佐久間ゼミ)
　　3年　柳沢雄斗
　　映画専攻(三浦ゼミ)
　　3年　多々良舞

柳沢　広く学べるっていうのは、お二人がいま言ってくださったとおりで、僕も楽しいなと思いました。それから、休み時間とか、授業の合間合間で学科の友だちと話をするのもすごく刺激になっています。みんな比較芸術学科に入ってくるからには好きな芸術とかジャンルがあって、「こんな面白い演劇があるんだよ」とか「いまこういう映画をやっているよ」などと教えてくれる。興味関心をそそられる仲間ができるのは、この学科の良さだと思います。

大野　1年生のときに、全般なことを学ばなければならない状況に強制的に置かれるので、それがやっぱり新しい発見に繋がったと思っています。同じ主題であっても、音楽で表現するときと、造形的に表現するときでは、似ているところもあれば、違うところもあります。たとえば「水」を表現するのだとして、音によってなのか、平面なのか、立体なのか、時間は止まっているのか、流れているのか、それによってさまざまです。異質な表現を見比べていくことで、最終的に、自分の興味がある分野、僕だったら音楽にその学びをフィードバックすることができます。

＊　＊　＊　＊　＊

三浦　3年次にはゼミを選んで、それぞれの専門分野で学びを深めることになります。それぞれのゼミについて教えてください。

多々良　私は三浦ゼミで映画の勉強をしていますが、同じく映画を学ぼうという学生が集まってくるので、学びを深め合える。他人の意見を聞くのってすごい大事だなと改めて感じます。三浦ゼミは合宿とか楽しい課外活動もあるらしいのでとても楽しみです。

松元　池野先生の現代美術の授業を受けてゼミを決めたんですが、池野先生がとにかく優しくて。先生からのフィードバックで知識がどんどん増えているのを感じます。みんなで意見交換するときも良い質問が出てくるし、「あ、そういう視点があったんだ」と気づくことができる。ゼミでの学びはすごく楽しいですね。

柳沢　僕は佐久間先生の演劇のゼミに所属しています。シェイクスピアの『十二夜』を英文で読み進めるということをやっているんですけど、佐久間先生が重視しているのは、基本的な文献を読む力です。佐久間先生が英語のテキストを解説してくださって、絶対に自分一人では気づけないような、作品の背景となっている知識を教わっています。グループワークでは、佐久間先生自身も学生の意見をすごく尊重してくださって、本当に学生と先生との距離が近いゼミだなって感じました。発言するときは結構、緊張もあるんですけれど、だんだんと自信が持てるようになってきたというのはありますね。

大野　僕は広瀬ゼミに所属しています。ここでは作曲理論の勉強と、それが具体的な作品の中でどう生かされているのかを見つける楽曲分析、最後に、分析法を学んだ上でゼミ生が個別に自由にテーマを設定して発表する個別発表の三部分から構成されています。

＊　＊　＊　＊　＊

三浦　最後に受験生へのメッセージをお願いします。

多々良　私は自己推薦で入学したんですが、自己推薦で行くからには、他の追随を許さないくらい「この分野が好きなんだ!」っていう愛とか熱量を持って受験に挑んでほしいです。「愛を持ったオタクになって!」と、自己推薦で入りたいと思っているみなさんには伝えたいです。

松元　私は一般入試で入ったんですけど、やっぱり世界史をやった方が良いかなと思います。とくに美術の歴史を学んでいた方がいいと思いますね。で、入学できたら、この学科に入って後悔はしないと100%言い切れると私は思っていて。

三浦　100%(笑)。

松元　はい、芸術好きなら楽しめるんじゃないかな、と。ですので、がんばって勉強してほしいなと思います。あと息抜きも大事なので、空いた時間に映画を観るとか、美術館に行くのもおすすめです。

柳沢　僕は勉強が嫌いだったので、やる気が出ない人の気持ちも分かるんですけれども、「ここで勉強したい!」っていう学科が見つかったら、あとは入るためにひたすら勉強するのが大事だと思います。がむしゃらにやってくださいっていう感じですね。

大野　美味しいご飯をいっぱい食べて、よく運動して、十分な睡眠をとることをオススメします。健康でいる方が、不健康なときよりも良く作品を吸収できますので。それから高校生のうちにたくさん遊んでおかないとろくでもない人間になってしまうので。

一同　(笑)。

大野　座学は大学に入ってからたっぷりやる時間はありますし、高校生のうちにどれだけ充実した生活を送れるかが、将来的に作品の鑑賞をより深いものにしてくれると僕は信じているので、ぜひ遊んでください。

三浦　遊びというのは、ちなみにどういった?

大野　僕は、中学・高校で麻雀とかビリヤードとかダーツとか、色々やりました。

三浦　なんかすでに大学生みたいですね(笑)。すばらしい。たしかに感性を磨くためにいろいろなことを経験するのはとても重要です。みなさん、今日はありがとうございました。

卒業生からのメッセージ

伝えたくてたまらない!

川口市役所（司書採用）中央図書館勤務
比較芸術学科2017年度卒業
西内　彩乃

この学科の特色と言えばレポートを書く機会が多いということ。

なぜ、レポートを書くのか。それは自分の「好き!」、「すごい!」、「面白い!」という感情を、他の人と共有するためです。共有できた時の喜びは計り知れません。そのおかげで、今でも心揺さぶられる作品に出会うと、何とか言葉にしたいともがいてしまいます。比芸にはそんな同士がたくさんいます。

現在は図書館で司書として働いています。司書の仕事とは、「人と本をつなげる」ことです。「好き」や「面白い」を利用者に伝え、共有するために日々試行錯誤しています。比較芸術で培われた力はずっと活き続けてゆくのです。

自分の「好き」は何なのか。大学選びに悩んだら、少し立ち止まってはどうでしょうか。私は「好き」を貫いて大正解でした。この学科に来ればきっと「伝えたくてたまらない!」と思える作品に巡り合えるはずです。

比較し、選択する学科

イオンリテール株式会社
比較芸術学科2020年度卒業
林　希美

比較芸術学科は人生と同じく、選択の連続です。専攻分野は勿論、レポート一つにおいても扱う作家・作品・テーマ……。学生同士の密な意見交換や、教授からの専門的なフィードバックから自身の興味関心を育てます。芸術を古典重視の姿勢で学ぶことで、自身の価値観が進化します。それは現代の自分のもつ価値観に頼らず、古来より「良い」とされ、受け継がれた古典そのものとその理由について学び、体内化する為です。比芸で培う物事の相違を顕にする比較という手段、芸術という正解のないものを抽象化し、言語化する能力や柔軟性は正しく皆さんの力になり、より良い選択に繋がります。

意図のある選択は時に想定外を導きます。入学当初平凡なアニメオタクだった私は、比芸で宝塚や映画と出会い、卒論では能・歌舞伎における鬼をテーマに執筆しました。今は総合小売業に従事し、お惣菜を通して人々に「日常」を提供しています。是非皆さんも選択を重ね、未知との遭遇を楽しんでほしいです。

Who Could Ask for Anything More?

公益財団法人新国立劇場運営財団
研修主管オペラ研修係
比較芸術学科2019年度卒業
宮腰　大地

ひげ民(比較芸術学科学生の通称)の学生生活は青キャンだけにとどまりません。授業が終わってから、僕らの第二キャンパスである劇場、コンサートホール、美術館で、楽しい課外授業がはじまるのです。そこで「本物」を鑑賞して生じる衝撃…心震える瞬間…忘れられない作品との出会いが学びを豊かにしてくれます。さらに、鑑賞して味わった感動や好きな作品をレポートで提出する機会が多くあります。どうして心揺さぶられたのか、どこに魅了されたのか、好きだからこそ客観的に述べるのは困難ですが、四年間で鍛えた「言葉で伝える」こと、つまり「発信力」は、どの仕事でも必要となる力だと実感しています。

愛してやまない芸術分野にどっぷり浸って様々な観点から比較しながら、学問としての「芸術」を文化の発信地「東京」でじっくり探究できる。これ以上の幸せはありません!

芸術オタクたちに囲まれた贅沢な環境

アートアクアリウム美術館
（株式会社Amuseum Parks）
比較芸術学科2020年度卒業
馬渕　理彩

比較芸術学科の魅力は、その道のオタクたちの話を思う存分聞ける環境だという点です。比芸の先生たちは、大学の教授である前に、芸術のオタクなのだと私の目には映っていました。熱量こめて芸術への愛情を語る先生をみて、変わった先生だな…と思ったこともありましたが、その道のプロフェッショナルから深いお話を聞くことができるのは、比芸でしか体験できないとても貴重な日々だったのだな、と、その環境から離れたいま、より一層強く感じています。友人との付き合いも同様で、みんなそれぞれに好きな分野があり、どんな視点で芸術と触れているのかを共有できていたのは、私にとってとても刺激となりました。4年間、思いっ切り芸術と向き合う時間を持つことは、社会に出てからも大きな意味を持つと、信じています。

特別授業の紹介

一年生の必修科目「比較芸術学入門A・B」をはじめとする比較芸術学科の専門科目では、ときおり芸術諸分野の専門家をゲストスピーカーとしてお招きし特別授業を実施しています。また、比較芸術学会大会でも毎回各分野を代表する研究者や実演者、制作者の方々に講演をお願いしています。2019年度に行われた特別講演をご紹介します。

第七回比較芸術学会大会
岡岩太郎氏講演会《2019年度》

長年にわたり日本絵画の修理現場を第一線で担い続けている（株）岡墨光堂の代表取締役の岡岩太郎氏をお迎えし、修理によって絵画の見え方や評価が変わり得ることを、スライドを使って臨場感たっぷりにお話いただきました。若冲の「動植綵絵」等、国宝級の修復経験から、「次世代にどこまで情報を残せるか。何が正解かは次世代が決めること。」という覚悟に、心を動かされた学生は少なくありませんでした。

課外ワークショップの実施

比較芸術学科では、ワークショップを実施し、美術・音楽・演劇映像を実地に触れる機会を設け、現場でしか伝えられない「鑑賞のツボ」を直に教授します。2021年度に実施予定の催しは以下の通りです。

後期　■日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会

12月　■劇団昴公演『クリスマス・キャロル』観劇
■文楽鑑賞教室

芸術鑑賞サロンの開催

芸術鑑賞は、教員から学生へと教えるような縦の関係で成立するものではありません。互いに一体となって作品の素晴らしさに身を委ねる、そんな対等な関係においてこそ、真の鑑賞体験は成り立つものです。原始時代の人々はなんのために芸術を生みだし、なんのためにそれを必要としたのでしょうか。私たちはそのような原点に立って芸術を考え、味わう場として、芸術を鑑賞し合うサロンを開催し、授業ではなかなかすべてを取り上げることが難しい舞台作品や映画を、ビデオなどで全編鑑賞する機会を設けています。これまで、映画や歌舞伎、戯曲、オペラを鑑賞し、教員が適宜解説を加えつつ、その作品についての理解を深める場として、活発な議論が戦わされました。教員が個人的に所有する「本物」の美術作品を、直接鑑賞する機会なども設けられています。

比較芸術学会

本学科には、授業と課外活動のほかに、学生のみなさんが協力しあいながら自主的に学び、研究の成果を発表するための学会組織「青山学院大学比較芸術学会」があります。2013年度に設立されたこの学会は、学生全員と専任教員を主な学会員とします。活動内容は次の通りです。芸術全般についての専門的な研究成果を発表する学会誌『パラゴーネ』の発行（年1回）。学生が主体となって、芸術や文化について自由に執筆する『HIGE会報』の発行（年3~4回）。比較芸術学会大会の開催（年1回）。また、美術・音楽・演劇映像の各分野に「研究会」があり、それぞれ鑑賞会や勉強会を定期的に開催しています。学会活動を通して、学生のみなさんに自ら学ぶことの面白さを存分に体験していただきたいと希望しています。

私たちがサポートします！

比較芸術学科合同研究室スタッフ

大学院 文学研究科 比較芸術学専攻

本専攻は、急激に変化しつつある今日の国際社会や地球環境のなかで、社会や自然と芸術との関係、および芸術がこれまでの人間の歴史や社会に果たした役割などを改めて考えることを基本としています。したがって、芸術系諸学との相互関係はもとより、歴史や哲学、文学をはじめとする人文科学系諸学とのそれをも踏まえながら深く掘り下げ、研究することがその目的です。

本専攻で取り上げる領域は学部段階（本学文学部比較芸術学科）と同じく、芸術系諸学のなかでも中心的かつ古典的な研究の蓄積をもつ美術史学、音楽学、演劇映像学の諸分野であり、志望する学生は、各自希望する領域の基礎的学力を備えていることが前提となります。そして、入学後はその基礎のうえに立ってそれぞれ専門分野の研究に入りますが、そこでは常に上記の他領域に関心のまなざしを向け、それらとの比較をつうじた専門的な視野が要求されるでしょう。

授業は、実作品の鑑賞研究を中心に、文献史料の読解力を蓄える原典講読や論文執筆のための文章力を鍛えるレポート作成、そしてプレゼンテーション能力を高める課題発表などで構成されています。博士前期課程では、そのそれぞれについて学部段階よりはいっそうの充実が求められ、成果を修士論文としてまとめることとなり、また同後期課程では、学会発表や学術誌への投稿を経て、博士論文の作成が最終の目的となります。これらの研究過程で、専門分野における社会貢献や就職の道もひらかれることでしょう。

比較芸術学専攻 博士前期課程

	授業科目	
基礎科目	比較芸術学研究法Ⅰ、Ⅱ	比較人文学研究法Ⅰ、Ⅱ
専門科目	日本・東洋美術史（1）研究Ⅰ、Ⅱ 日本・東洋美術史（2）研究Ⅰ、Ⅱ 日本・東洋美術史（3）研究Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史（1）研究Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史（2）研究Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史（3）研究Ⅰ、Ⅱ	日本・東洋美術史（1）演習Ⅰ、Ⅱ 日本・東洋美術史（2）演習Ⅰ、Ⅱ 日本・東洋美術史（3）演習Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史（1）演習Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史（2）演習Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史（3）演習Ⅰ、Ⅱ
	日本・東洋音楽史研究Ⅰ、Ⅱ 西洋音楽史（1）研究Ⅰ、Ⅱ 西洋音楽史（2）研究Ⅰ、Ⅱ	日本・東洋音楽史演習Ⅰ、Ⅱ 西洋音楽史（1）演習Ⅰ、Ⅱ 西洋音楽史（2）演習Ⅰ、Ⅱ
	日本芸能論研究Ⅰ、Ⅱ 西洋演劇論研究Ⅰ、Ⅱ 映像文化論（1）研究Ⅰ、Ⅱ 映像文化論（2）研究Ⅰ、Ⅱ	日本芸能論演習Ⅰ、Ⅱ 西洋演劇論演習Ⅰ、Ⅱ 映像文化論（1）演習Ⅰ、Ⅱ 映像文化論（2）演習Ⅰ、Ⅱ
研究指導	研究指導演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	

学生インタビュー

比較芸術学専攻
博士後期課程2年
本田　裕暉さん

私が比較芸術学科に入学したきっかけは、高校のオーケストラ部で演奏したドヴォルザークの《交響曲第9番「新世界より」》でした。当時楽器の演奏がさほど得意ではなかった私は、演奏よりもむしろ「新世界」の録音を聴き比べることに熱中していました。そして、同曲のCDを30枚集めた頃から録音評を求めて音楽雑誌を手にするようになり、そこで広瀬先生の名前を見つけたのです。

学部の4年間で芸術を「学ぶ」ことの面白さ、楽しさに魅了された私は、より深く、専門的に芸術を学びたいと考え、大学院への進学を決めました。現在は、昨年没後100年を迎えたドイツの作曲家、マックス・ブルッフの作品について研究しています。日本ではまだ十分に知られていない楽曲の魅力を、研究と執筆を通して発信していくことが目標です。

比較芸術学専攻の一番の魅力は非常勤の先生方も含め、幅広い領域の先生の指導を受けられること。加えて、キャンパスがホールや美術館、映画館へのアクセスが容易な立地にあることも、とても大きなメリットです。先生方のサポートと大学の好立地に恵まれ、日頃から芸術を身近に感じつつ、日々学びを深めています。

修了生からのメッセージ

郡山市立美術館
比較芸術学専攻
2020年度修了
鈴木　えみこさん

深く学び、広く知る

比較芸術学科を目指す人の中には、「学芸員」なんて仕事もいいな、と考えている方もいるかもしれません。私も一度企業に就職した後に、やはり学科で学んだことを活かして働きたいと思い直し、大学院に入りました。

大学院では研究に打ち込み、そして研究方法を体得していくことが大切です。しかし実際の学芸業務では、一つの研究だけに没頭していればいいという事はほとんどなく、様々な地域や時代の文化芸術についての知識も必要とされます。その意味では、比較芸術学科・専攻で広く芸術分野について学んだことは、私の今の仕事においてアドバンテージになっていると思います。

比較芸術学科から学芸員を目指す人には、大学院では研究について多くの先生方や友人達と話し、学外でも学会・勉強会に参加する、博物館でのインターンやアルバイトなどを通して、フットワークを軽く、視野を広くすることをお勧めます。学生特権を活用して、将来設計に役立てましょう。

茨城県立歴史館
2017年度博士前期課程修了
2020年度博士後期課程単位取得退学
蔀　政人さん

「比較」による越境した学び

漂う雲に乗り、極楽浄土より迫り来る阿弥陀如来。菩薩たちは楽器を奏で、虚空には蓮華が舞う。そうした幻想的情景に魅せられた私は、在学中に阿弥陀来迎図の研究に取り組みました。この美術史の研究に多角的視野を与えてくれたのが、学科の特徴である美術、音楽、演劇・映像を「比較」した学び。音楽史や芸能史の講義で鑑賞し得た、大陸から伝来し変容した日本古来の楽器や行道儀礼についての知識は、阿弥陀来迎図の図像を読み解く際に非常に有益なものとなりました。

現在は学芸員として、仏教美術の他、近世絵画や漆工品などの美術工芸全般を担当し、日々調査研究・展示活動を行っています。そうした時、当学科で身に着けた「多角的視点に立ち、五感を研ぎ澄ませて物事を観察する」姿勢が現在の仕事に繋がっていることを強く実感しています。

ミクロとマクロの視野を持ち芸術を学ぶ。比較芸術学科での学生生活は、他では得られない気づきを与えてくれるでしょう。

卒業後の進路

本学科の学生には、芸術分野への道はもちろん、文学部の他学科と同じように、一般企業への道も広く開かれています。

取得可能な資格

学芸員、司書、社会教育主事

2020年度 進路・就職先

■大学院・専門学校
青山学院大学大学院
一橋大学大学院
横浜国立大学大学院
桑沢デザイン研究所
町田ひろ子インテリアアカデミー
■建設業
セキスイハイム東海(株)
■製造業
伊藤忠メタルズ(株)
(株)三恒
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
凸版印刷(株)
(株)パイロットコーポレーション
■情報通信業
(株)アドービジネスコンサルタント
(株)エーフロンティア
(株)NTTデータエマーズ
(株)ODKソリューションズ
オープンリソース(株)
(株)Going
(株)サンユ情報システム
(株)Jストリーム
(株)ジェットスタジオ
(株)シャノン
ネオス(株)
(株)ハレクラニフィル
(株)日立ICTビジネスサービス
(株)ピラミッドフィルム
(株)マネジメントソリューションズ
■運輸業・郵便業
京極運輸商事(株)
■卸売業・小売業
(株)アダストリア
アルコニックス(株)
イオンリテール(株)
(株)エアウィーヴ
カネボウビューティカウンセリング(株)
(株)ガモウ
(株)クリエイトエス・ディー
杉田エース(株)
(株)ZOZO
(株)トレードワークス
日本事務器(株)
(株)パルグループホールディングス
(株)ピックカメラ
(株)三越伊勢丹
■金融業・保険業
エムエスティ保険サービス(株)
(株)セブン銀行
東京海上日動あんしん生命保険(株)
東京海上日動安心110番(株)
東京シティ信用金庫
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井住友信託銀行(株)
明治安田生命保険相互会社
(株)りそなホールディングス
■不動産業・物品賃貸業
三菱地所ハウスネット(株)
(株)ユニバーサル園芸社
■学術研究、専門・技術サービス業
(株)アイスタイル
(株)北風と太陽
(株)銀杏社
パクテラ・コンサルティング・ジャパン(株)
(株)博報堂プロダクツ
■宿泊業・飲食サービス業
(株)京王プラザホテル
スターバックスコーヒージャパン(株)
■生活関連サービス業・娯楽業
(株)Amuseum Parks
■その他のサービス業
公益財団法人福武財団
有限会社ボンズ企画
■公務
国家公務員・東京都
地方公務員(消防官)・東京都
地方公務員(特別区)・東京都

※アイウエオ順

入試情報

詳細は本学ウェブサイトでご確認ください。▶ https://www.aoyama.ac.jp/

【一般入学試験】

	募集人員	Web出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
全学部日程	約5名	2022年1月6日(木) ～1月21日(金)23:00まで	2022年2月7日(月)	2022年2月13日(日)	2022年2月21日(月)
個別学部日程	約45名	2022年1月6日(木) ～1月24日(月)23:00まで	2022年2月14日(月)PM	2022年2月23日(水)	2022年3月2日(水)

※出願書類提出期限は、全学部日程はWeb出願期間締切日3日後、個別学部日程はWeb出願期間締切日2日後郵送必着です。
※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は2022年3月15日(火)です。

【自己推薦入学試験】

出願資格は、次の(1)～(3)のすべての項目に該当する者。
(1)以下の①または②のいずれかに該当する者
　①2022年3月に日本の高等学校を卒業見込みの者
　②文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2022年3月31日までに修了見込みの者
(2)本学科を第一志望として本学科へ進学を希望する者
(3)以下の①または②のいずれかに該当する者
　①高等学校における「全体の学習成績の状況」が4.0以上である者
　②下記、3点すべての要件を満たす者
　　1)高等学校における「全体の学習成績の状況」が3.8以上であること
　　2)高等学校における「外国語」の「学習成績の状況」が4.2以上であること
　　3)高等学校における「世界史B」または「日本史B」のいずれかの「学習成績の状況」が4.2以上であること

	募集人員	選考方法	出願期間	合格発表日
第1次審査	約8名	書類審査	2021年10月4日(月)～10月7日(木) 郵送必着	2021年11月12日(金)

第1次審査合格者のみ

	選考方法	試験日	合格発表日	入学手続締切日
第2次審査	芸術に関する基礎知識、面接	2021年11月23日(火)	2021年12月7日(火)	2021年12月17日(金) 郵送必着

知っておきたいQ&A

Q 学科名の“比較”には、学ぶうえでどのような意味があるのですか?

例えば芝居やミュージカル、映画には“美術”と“音楽”が不可欠です。そのため、ふたつの分野を比較しながら作品を探究すれば、より深い理解が得られます。こういったジャンル間の比較学習、あるいは時代間の比較学習や地域間の比較学習などを通して、両者の類似性、異質性に気づいたり、関連性、独自性を知ることができ芸術探究が進展する。そこに比較学習の優位性があります。

Q 21世紀の現代に、古典を重視して学ぶのは、なぜですか?

音楽でいえばクラシックからジャズ、ロックへというように、時代も前衛を走る芸術は、それ以前の伝統を踏まえ、そこに異議を唱えて登場してきます。歴史に磨き抜かれた古典の原典と真摯に向き合えば、現代でこそ新たな可能性を発見できるはずです。歌舞伎も、シェイクスピアも、そこに現代の解釈や演出を行えば現代の作品に生まれ変わる。古典には、それだけの奥深さがあるからです。

Q 実体験に基づく教育とは、どのようなものですか?

鑑賞体験を深めるための実技授業があります。それ自体をメインで学ぶわけではありませんが、イコノロジー(図像学)でいえば、自らスケッチをすることで、描かれたモチーフの意図や解釈の手がかりとします。なお、鑑賞を促すために、本学は国立の美術館・博物館と提携、青学生は常設展の無料鑑賞が可能です。演劇や音楽の鑑賞についても、学生ならではの割引制度を各種用意しています。

Q この学科で学ぶと、どのような教養が身につきますか?

“芸術”は人類の根源的な営みであり、時代を映す鏡に例えられます。なかでも古典を学ぶことは、人間の本質を理解することであり、自分自身の人間形成につながります。どのような社会や環境に身を置いても、自信をもって考えを表明したり、異文化の相手とも円滑に対話できるような寛容さを養うことができるはずです。そして、現代に求められている人間性を尊重した課題解決力も身につくでしょう。